



2020年1月17日

各位

会社名 株式会社くろがね工作所
 代表者名 代表取締役社長 神足 尚孝
 (コード：7997、東証第2部)
 問合せ先 取締役経理本部長 森 吉武
 (TEL. 06-6538-1010)

特別損失の発生及び通期業績予想と実績の差異に関するお知らせ

当社は、2019年11月期（2018年12月1日～2019年11月30日）において、下記のとおり特別損失を計上いたしました。また、2019年7月16日に公表いたしました2019年11月期の連結通期業績予想および個別通期業績予想と実績に下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

1. 特別損失の発生

当社で製造販売いたしました懸垂式引戸「アキュドユニット」の防火設備認定品に関し、国土交通省による定期サンプル調査を受けました結果、指定性能評価機関における防火性能評価試験において、防火性能の基準を満たさないという判断を受けました。この試験結果により、当該製品の出荷を停止しております。当社といたしましては国土交通省の防火性能基準を満たす仕様への改善対策を施した上、速やかに指定性能評価機関における防火性能試験（2020年2月中旬から3月中旬を想定しております）を受け、国土交通省大臣の再認定を取得し出荷の再開に努めているところでございます。既に納入をさせていただいております該当の防火設備認定品に対する改修方法並びに改修スケジュールにつきまして、個別にご連絡・ご相談をさせていただき順次対応させて頂く予定にしております。当該改修に伴う関連損失の見積額 38,300 千円を 2019 年 11 月期の決算において、製品自主回収関連損失として特別損失に計上しております。

2. 通期業績予想数値と実績の差異

(1) 連結業績

単位：百万円

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり連結当期純利益
前回発表予想 (A)	10,550	60	40	25	14円67銭
実績値 (B)	9,550	△225	△238	△284	△167円19銭
増減額 (B-A)	△1,000	△285	△278	△309	
増減率 (%)	△9.5	—	—	—	
(参考) 前期連結実績 (2018年11月期)	11,042	△22	△54	△59	△34円96銭

(2) 個別業績

単位：百万円

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	10,500	30	20	11円74銭
実績値 (B)	9,526	△261	△303	△177円92銭
増減額 (B-A)	△974	△291	△323	
増減率 (%)	△9.3	—	—	
(参考) 前期実績 (2018年11月期)	11,035	△75	△77	△45円72銭

(3) 通期業績予想数値と実績の差異の理由

売上面につきましては、家具関連事業において金融機関や大手企業の大口移転案件が減少した一方、新規事業として取り組んでいる文書整理収納体関連の受注が増加しておりますが、納入開始時期が2020年以降に延期となったこと等から予想を下回りました。建築付帯設備機器事業においては、上半期には東日本地区での大口案件やコストダウン仕様の新製品の投入等もあり増収となりましたが、第4四半期における医療福祉関連施設の着工・完工案件の減少、遅延が影響し、また、前期より取り組みました空調機OEM事業の受注が堅調に推移いたしましたが、主力の病院向けクリーン機器の受注が減少したことにより、通期で増収とはなりませんが、予想を下回る結果となりました。

また損益面につきましては、家具関連事業における減収による粗利額の減少、主要材料である鋼材・樹脂等の原材料価格の高止まりの解消を見込んでおりましたが想定よりも継続している影響を受け、特に第4四半期に予定をしていた病院施設関連の案件における納入時期の延期等に伴い建築付帯設備機器部門における工場稼働率の低下等が影響したことにより、内製化の取り組みによる外注加工費の削減等により製造原価の低減を進めておりましたが、家具関連事業・建築付帯設備機器事業の両事業部門の製造原価が増加したため営業損失を計上する結果となり、併せて1.に記載のとおり特別損失が発生したことにより、業績予想数値との差異が発生いたしました。

以上